（電気設計・シーケンス制御のサンプル）

職 務 経 歴 書

20xx年xx月xx日現在

氏名　○○ ○○

■職務要約

株式会社○○○○○に入社後、約x年間、電子部品工場の装置やマシニングセンタ機械の制御設計に従事してきました。CADを用いた回路図設計、PLCソフトによる設計などができるほか、顧客先へ同行しての仕様提案も経験。20xx年からは約xx名のチームのサブリーダーとして、社内チームのスケジュール管理のほか、協力会社への設計依頼など、経験を活かした業務を担当しています。

■活かせる経験・知識・技術

＜電気ハード設計の技術＞

・制御盤、設備の部品選定

・AutoCADを用いたモーター駆動回路、制御回路の設計

・図面の検図（リレーチェック、デバイス・電線チェックなど）

・協力会社への制御盤設計指示

・既存顧客に導入後の配線調整

＜シーケンス制御の技術＞

・ST言語を用いたPLC回路設計

・デバッグ作業

＜そのほかのスキル＞

・顧客へのヒアリング、仕様提案

・スケジュール策定能力

・サブリーダーの経験

■職務経歴

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 20xx年xx月～現在　　株式会社○○○○○ | | |
| 事業内容：電子部品工場の各種装置、工作機械、医療関連機器の製造、販売  資本金：x千万円（20xx年xx月）　売上高：x億x千万円（20xx年xx月）  従業員数：xxx人　上場：未上場 | | 正社員  として勤務 |
| 20xx年xx月～現在　製作所向け　マシニングセンタ開発 | 開発環境 | 規模／役割 |
| 【業務内容】  ・顧客への開発ヒアリング同行、仕様書作成  ・設計および全体のスケジュール策定  ・制御盤の部品選定、基本設計、協力会社への詳細設計依頼  ・PLCソフト設計（旋盤のチャック自動交換）  ・デバッグ作業  ・機械の導入立ち会い、配線調整  【実績・取り組み】  ・サブリーダーとして、顧客先での要件定義から導入後のケアまで一連の作業を担当。チーム内のスケジュールを作成し、期限内に納入しました。  ・ドリルチャック交換機能のPLCソフト設計をST言語で行いました。 | 【ツール】  AutoCAD  Unidraf  【言語】  ST、LD | 全xx名  サブリーダー |
| 20xx年xx月～20xx年xx月　製作所向け　マシニングセンタ開発 | 開発環境 | 規模／役割 |
| 【業務内容】  ・電気ハード設計  ・制御盤内の配置図作成  ・PLCプログラム開発  ・デバッグ作業  ・配線  ・機械の導入立ち会い、配線調整  【実績・取り組み】  ・セーフティライトカーテン製作のための制御システムの設計。JIS規格に合わせた制御システムの安全関連部（SRP／CS）構築、再起動用セーフティリレーの選定、モーメンタリ式スイッチなどを担当しました。 | 【ツール】  AutoCAD  【言語】  ST、LD | 全xx名  メンバー |
| 20xx年xx月～20xx年xx月　半導体製造会社向け　半導体検査装置 | 開発環境 | 規模／役割 |
| 【業務内容】  ・電気ハード設計  ・制御盤の部品内部配置、マシンと制御盤間の配線  ・機械の導入立ち会い、配線調整  【実績・取り組み】  ・AutoCADを用いた半導体検査装置のモーター回路および制御回路を設計しました。 | 【ツール】  AutoCAD | 全xx名  メンバー |

■資格

|  |  |
| --- | --- |
| 普通自動車第一種運転免許 | 20xx年xx月取得 |
| 第2種電気工事士 | 20xx年xx月取得 |
| TOEIC Listening & Reading Test xxx点 | 20xx年xx月取得 |

■自己PR

＜エンドユーザーを意識したソフト設計＞

開発前のエンドユーザーへのヒアリングなどをもとに、使いやすさを考慮した設計を心掛けています。制御コントローラの設計では設定の変更が容易になるように、モニター表示用画面の見やすさ、扱いやすさを重視し、それを実現するために新しい技術の習得にも挑戦。画面の切り替え速度を従来よりもxx秒早くすることに成功しました。試運転時には顧客から操作性の良さを評価され、結果として生産性の向上にもつながったと考えています。

＜検図の社内体制の見直しでコスト削減＞

製作工程に移ってからの失敗リスクを下げるために、検図体制の強化を社内で提案。それまでも各担当者が検図していましたが、単なる図面ミスを修正するレベルでした。そこで、単純なミスは共通のチェックリストを作成してあらかじめ潰すことを義務化。そのあとに具体的な製造方法や納期まで念頭において、関係者で図面を検討するミーティングを設けました。結果として、早めに失敗リスクを発見・対処することができ、試作段階のコストを削減できています。

以上